

## 令和5年度病虫害発生予察情報 第3号（6月予報）

群馬県農業技術センター  
環境部 発生予察係  
（病虫害防除所）  
TEL 0270-62-1059  
FAX 0270-20-8016

## 【予報の概要】

作物名	病虫害名	対象地域名	発生時期	発生量
作物全般	アブラムシ類	栽培地帯全域	—	並
イネ	ヒメトビウンカ	栽培地帯全域	—	やや多
	縞葉枯病	感受性品種栽培地帯	並	並
	イネミズゾウムシ	栽培地帯全域	—	並
	白葉枯病	早期栽培地帯	並	並
	苗立枯病	早植・普通期栽培地帯	—	並
果樹類全般	チャバネアオカメムシ	栽培地帯全域	—	並
	ハダニ類	栽培地帯全域	—	並
ナシ	黒星病	栽培地帯全域	—	並
	ナシヒメシンクイ	栽培地帯全域	—	並
野菜・花き類	オオタバコガ	栽培地帯全域	—	並
トマト・キュウリ	コナジラミ類	施設栽培地帯全域	—	並
キュウリ	べと病	施設栽培地帯全域	—	並
	褐斑病	施設栽培地帯全域	—	並
	うどんこ病	施設栽培地帯全域	—	並
	アザミウマ類	施設栽培地帯全域	—	並
夏秋ナス	アザミウマ類	露地栽培地帯全域	—	並
	ハダニ類	露地栽培地帯全域	—	並
ネギ	ネギアザミウマ	露地栽培地帯全域	—	並
夏秋キャベツ	コナガ	高冷地栽培地帯	—	並

（発生時期の—は連続発生）

## 【主な病害虫の発生予報】

### I) イネ

縞葉枯病	発生地域	発生時期	発生量
	感受性品種栽培地帯	並	並

#### 1 予報の根拠

- (1) 令和5年2～3月に採取したヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス（RSV）保毒虫率の県平均は1.9%で、過去10年の平均値3.5%を下回った（令和5年3月24日発表 発生予察情報）。
- (2) RSV保毒虫率が2.2%であった昨年のイネ縞葉枯病の発生は、平年並であった。
- (3) 5月4半旬に県内12地点（定点）で行った麦類作付ほ場におけるすくい取り調査の結果、ヒメトビウンカの捕獲数は平年よりやや多かった（令和5年5月23日発表 発生予察情報）。
- (4) 有効積算温度計算シミュレーションによると、本年のヒメトビウンカ第一世代成虫の発生は平年より早いと予測される。

《発生しやすい条件：ヒメトビウンカのRSV保毒虫率が高く、ヒメトビウンカの発生量が多い場合。麦類作付けほ場における第一世代の発生量が多い場合、田植後の水稻への侵入が多くなる。》

#### 2 防除上注意すべき事項

- (1) イネ苗へのヒメトビウンカの飛び込みを防止するため、イネ科雑草が繁茂した場所や麦類作付ほ場付近での育苗を避ける。
- (2) 発病株は伝染源となるので、早期に抜き取り処分する。
- (3) イネ縞葉枯病感受性品種（コシヒカリ、ひとめぼれなど）を作付する場合は、本病を媒介するヒメトビウンカの防除を徹底する。

## 【コラム】

### 施設トマト、促成キュウリ

#### 現在の施設栽培で発生している害虫を次作に持ち越さないための対策

##### 【コナジラミ類】

- ・栽培作物の地際部の切断、適用薬剤による処理などで全ての株を枯死させます。
- ・施設を密閉し、蒸し込み処理（施設内気温40℃以上、7日以上）を行います。

##### 【アザミウマ類】

- ・栽培終了時の気温が高い時期の場合、施設を密閉し、蒸し込み処理（施設内気温50℃以上、7日以上）を行います。
- ・気温が低い場合は株を速やかに枯死させ、1か月程度、施設を密閉します。

## 【その他の病害虫の発生予報】

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	特記事項
作物全般	アブラムシ類	—	並	各種トラップへの誘殺数は、中山間地はやや多いが、平坦地は平年並。
イネ	ヒメトビウンカ	—	やや多	【主な病害虫の発生予報】 I) イネ 縞葉枯病 参照。
	イネミズゾウムシ	—	並	現在までの発生量は平年並。 イネミズゾウムシに登録のある箱施用剤を使用しない場合は発生に注意する。
	白葉枯病	並	並	現在までの発生量は平年並。
	苗立枯病	—	並	床土の土壌水分を適正に保ち、温度管理に注意する。
果樹類全般	チャバネアオカメムシ	—	並	各種トラップへの誘殺数は平年並からやや少ない。
	ハダニ類	—	並	現在までの発生量は平年並。
ナシ	黒星病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	ナシヒメシンクイ	—	並	フェロモントラップへの誘殺数は平年並。 7月に第二世代の発生のピークがあるので注意する。
野菜・花き類	オオタバコガ	—	並	現在までの発生量は平年並。
トマト・キュウリ	コナジラミ類	—	並	現在までの発生量は平年並。 栽培終了後の対策については【コラム】を参照。
キュウリ	べと病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	褐斑病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	うどんこ病	—	並	現在までの発生量は平年並。
	アザミウマ類	—	並	現在までの発生量は平年並。 栽培終了後の対策については【コラム】を参照。
夏秋ナス	アザミウマ類	—	並	現在までの発生量は平年並。 気温の上昇とともに発生量が増加するため、早期発見・早期防除に努める。
	ハダニ類	—	並	現在までの発生量は平年並。 気温の上昇とともに発生量が増加するため、早期発見・早期防除に努める。
ネギ	ネギアザミウマ	—	並	現在までの発生量は多いが平年並。
夏秋キャベツ	コナガ	—	並	現在までの発生量は平年並。 安中、渋川の育苗ほどのトラップへの誘殺数は平年並。 生育初期の防除を徹底し、初期密度を下げることにより、生育期中盤以降の被害拡大を防止する。

## 【今月の気象情報】

# 関東甲信地方 1か月予報

(6月3日から7月2日までの天候見通し)

令和5年 6月 1日  
気象庁 地球環境・海洋部 発表

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

要素	地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信地方	30	30	40
降水量	関東甲信地方	30	30	40
日照時間	関東甲信地方	30	30	40

### <概要>

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率40%です。降水量は、多い確率40%、日照時間は、多い確率40%です。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50%です。2週目は平年並または高い確率ともに40%です。3~4週目は、平年並の確率40%です。

<参考> 前橋地方気象台観測平年値(6月)

	平均気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(時間)
1半旬	20.8	17.3	29.9
2半旬	21.2	20.7	25.9
3半旬	21.7	26.4	22.5
4半旬	22.3	29.2	20.5
5半旬	22.9	29.2	19.1
6半旬	23.7	29.3	19.1

農薬の登録内容は随時変更されておりますので、防除薬剤については指導機関にご相談下さい。  
また、以下のホームページでも確認できますのでご利用下さい。

- ◆ 農林水産省 農薬コーナー (農薬に関する様々な情報)  
<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>
- ◆ (独) 農林水産消費安全技術センター (最新の農薬登録状況の検索や登録・失効農薬情報等)  
<http://www.acis.famic.go.jp/index.htm>
- ◆ 群馬県 農作物病害虫・雑草防除指針  
<https://www.pref.gunma.jp/06/f0900064.html>
- ◆ 群馬県農業技術センター 病害虫発生予察情報一覧  
<https://www.pref.gunma.jp/07/p14210015.html>
- ◆ ぐんま病害虫ライブラリー  
<https://sites.google.com/view/g-byougai>



病害虫発生予察情報  
一覧はこちら!